

2023年度 日本工学院専門学校											
A I システム科											
海外研修 2											
対象	2 年次	開講期	後期	区分	選択	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	岩堀 信一			実務経験	有	職種	システムエンジニア／プロジェクトマネージャ				
担当教員紹介											
担当教員は、主に金融分野・公共分野におけるシステム開発にシステムエンジニア・プロジェクトマネージャとして従事。オフショア開発を通じて外国人エンジニアとの協業経験有り。米国PMI認定PMP、AWS認定ソリューションアーキテクト-アソシエイト、日本ディープラーニング協会G検定等の資格を有する。											
授業概要											
アイデアソン・ハッカソンが何かをしり、実際にすすめていく。チームでの取り組みの中で、コミュニケーションをしっかりとる。発表の場にて自らのアイデアを伝えていく。プロトタイプに関する中間発表も実施する。成果物を完成させられるだけのプログラミングスキルが必須となるため、不足技術は自ら授業外で能動的に学習することが求められる。											
到達目標											
地域連携やコンテスト出場を通して、メンバーで成果物を完成させることを目標とする。最後まで成果物を完成させることで、専門技術の向上を目指す。また、新しいサービスや機能に関するアイデアを生み出すことができ、それをプレゼンテーションで相手に正確に伝えることができる。客観的な評価を受けた際、その内容を次につなげる改善する力を身に着けることができる。また、大会に出場し、客観的な評価を受け、次の参加につなげていく。											
授業方法											
ハッカソン・アイデアソンが何かを知り、進めるにあたっての手順を学ぶ。自らアイデアを出し、それをAIの技術で解決するための成果物を作成する。その過程で、アイデアが大切であること、チーム分けの重要性を学ぶ。また、中間発表による全体進捗の調整を行うことができる。プレゼンテーションを通じて、自らのアイデアを相手に正確に伝える技術を身に着ける。公的な大会に参加し、経験を積む。											
成績評価方法											
試験・課題 50% 試験は実施せず、プロトタイプ、制作物について評価する 成果発表 40% 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する (口頭・実技) 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する											
履修上の注意											
授業中の私語や受講態度などには厳しく対応をする。理由の無い遅刻や欠席は認めない。講義に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーを守ることを求める。(詳しくは、最初の授業で説明。) また、グループ学習の形式をとるため、協調性も評価の対象となりうる。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。ノートPCは必携である。											
教科書教材											
資料を配布する											
回数	授業計画										
第1回	展示会や講演会のテーマにそった事前知識を調査し、英語での情報を整理することができる										
第2回	事前調査によって整理した情報を他者と共有するために説明、発表することができる										
第3回	展示会・講演会に参加し、見識を深め、テーマについて深層まで探究することができる										
第4回	展示会・講演会の内容を振り返り、新たな知識を定着させることができる										
第5回	結果報告、自ら調査した事柄を他者と共有するために、情報を整理して説明することができる										